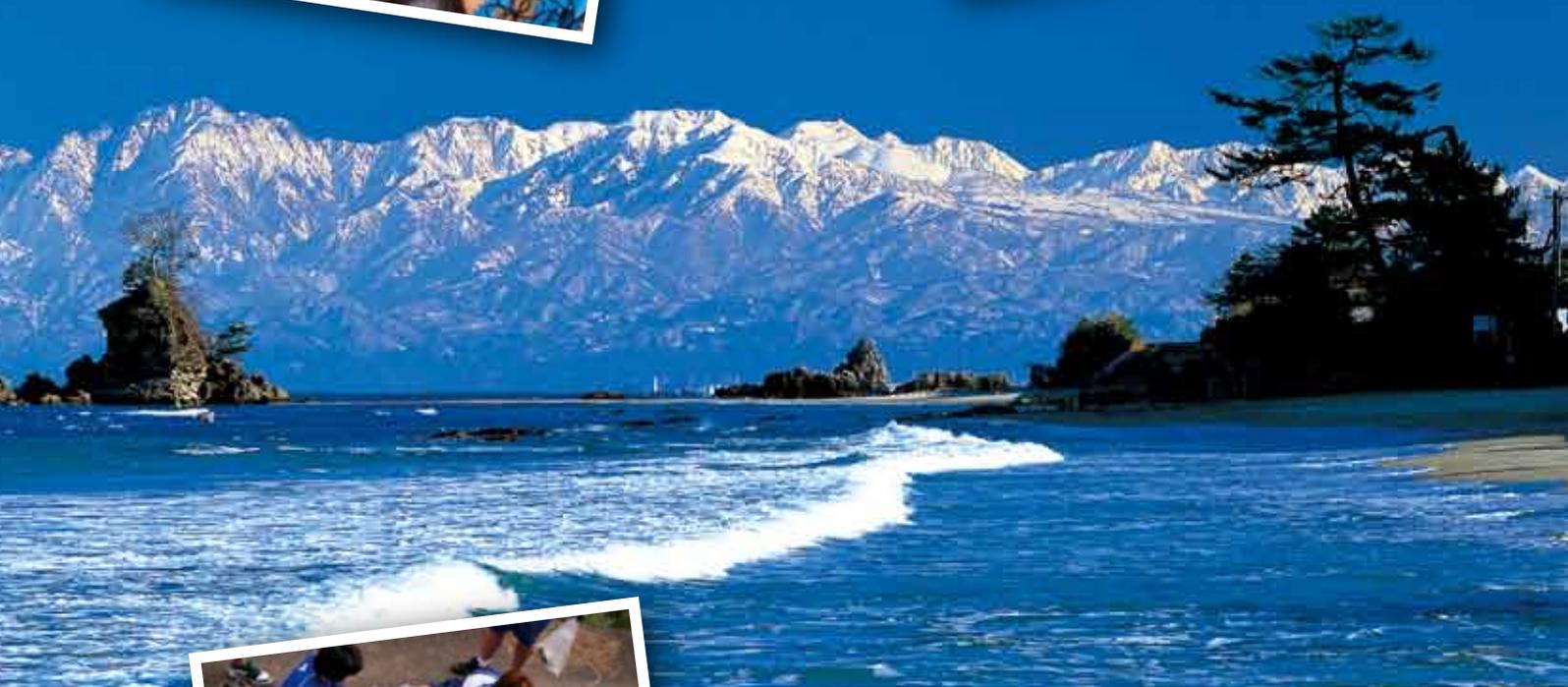


漂着物対策等活動 先進事例集



海洋ごみってなに？

海洋ごみとは、海や海岸にあるごみのことをいいます。大きく分けると以下の3つがあります。

漂流ごみ

海上や海中にあるごみ



海底ごみ

海底にすずんでいるごみ



漂着ごみ

海岸に流れ着いたごみ



写真提供:大田 希生

ごみはどこからやってくるの？

海洋ごみの原因はさまざまです。

海や海岸に直接捨てられたものや、陸上で捨てられたものが雨や風により川に入り、海に流れ出たものなどがあります。

海洋ごみの中でも、特に海岸に流れ着いたごみが問題になっていますが、そのほとんどが陸上で捨てられたものです。

環日本海環境協力センター (NPEC) が行っている「海辺の漂着物調査」の結果では、日本の海岸に流れ着くごみのうち、外国からのものは10%未満で、ほとんどが国内で捨てられたものであることが分かっています。

海を汚しているのは、私たちのごみだった！

陸上から川へ、川から海へ！

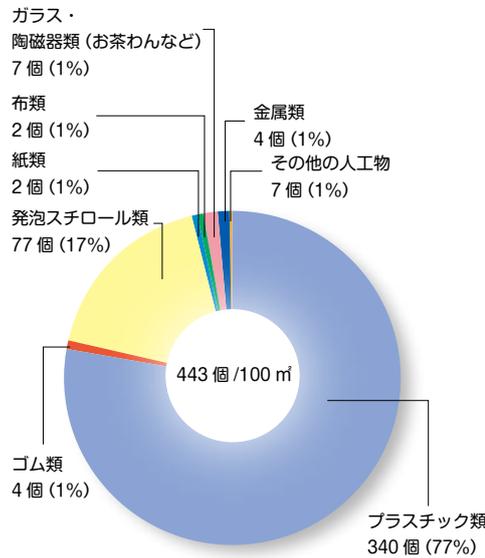


どんな種類のごみがあるの？

日本の海岸では、プラスチック類がもっとも多くみつかっています。

プラスチック製品は、なかなか分解されないため、海の生き物への影響や自然破壊が心配されます。

また、プラスチックや発泡スチロールの製品は、割れたりバラバラになったりしやすく、そうなると回収が難しくなります。



100㎡あたりの漂着ごみ平均個数
(10年間(2001~2010年)平均)

ごみが分解されるまでの時間

品物	年数
プラスチックボトル	450年
アルミ缶	80~200年
ビイ(発泡スチロール)	80年
ブリキ缶	50~80年
スチロールのカップ	50年
プラスチックの袋	10~20年
りんごの芯	2か月
オレンジやバナナの皮	2~5週間

出典: The Ocean Conservancy

細かくバラバラになった発泡スチロール



漂着ごみの量ってどのくらい？

1年間に日本の海岸全体に流れ着くごみの量はどのくらいでしょうか？

正確な量を知ることは難しいですが、NPECでは海辺の漂着物調査の結果をもとに、日本の海岸全体に流れ着くごみの量を

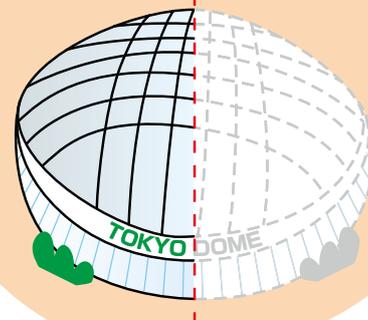
約19万トン/年

(2001~2010年の結果より)

と推定しています。

ごみがたくさん流れ着くと回収や処理がとても大変になってしまいます。

体積は約63万m³で
東京ドーム $\frac{1}{2}$ 個分



どんな影響があるの？

■ひとの健康や安全に対する影響

危険な漂着ごみ



先のとがったガラス製品などによりケガをすることがあります。

廃ポリタンク



ひとの体に悪い影響を与える液体が入っていることがあります。

医療系廃棄物



写真: 富山県河川課ホームページ

ひとに病気を感染させる可能性があります。

■海の生き物への影響

漁網がからまったアザラシ



写真提供: NPO法人OWS
撮影: USFWS Jhon Klavitter

釣針と糸がからまったウミネコ



写真提供: NPO法人OWS
撮影: 横山 耕作

ゴーストフィッシング (幽霊漁業) ※



写真提供: NPO法人OWS
撮影: 大塚 幸彦
※生き物が水中に捨てられた漁網などに引っかかり動けなくなること

■景観やひとの活動などへの影響

ごみでうめつくされた海岸



ごみで破れた漁網



写真提供: 公益財団法人 水島地域環境再生財団

■船の運行への影響

船のスクリューへのからみつき



写真提供: 対馬市役所

海を守るために私たちができることは？

海は、豊かな自然や漁業資源など数多くの恵みをもたらしてくれる貴重な財産です。

しかし、私たちの出したごみが、山、川、海へとつながる水の流れを通じて海岸に流れ着き、様々な影響を及ぼしています。

この大切な海を、豊かできれいに守り育てていくために、私たちは何をすればよいでしょうか。



きれいな海を守ろう！ ～身近なところから、できることから取り組もう～

海は一つにつながっており、一人ひとりが足元から行動を起こしていくことが重要なのです。

環日本海・環境サポーター アクション5



- ①ポイ捨て、
投げ捨てしない。
ごみの投棄のない
社会にしよう。



- ②河川、海岸や
身近な場所を
きれいにしよう。



- ③清掃活動、海洋ごみに
関する調査や学習の
機会に参加し、海洋ごみ
問題の解決のために
みんなで考えよう。



- ④海の生き物のための
海辺環境を
守り育てよう。



- ⑤豊かな海を育む森を
守り育てよう。

皆さんの環境活動事例

国・地域	団体名	主な活動テーマ	ページ
日本・富山県	朝日町立さみさと小学校	漂着物調査	7
	射水市立東明小学校	漂着物調査、漂着物アート	7
	高岡市立太田小学校	漂着物調査、漂着物アート	7
	富山市立岩瀬小学校	漂着物調査、清掃活動	8
	富山市立浜黒崎小学校	漂着物調査、漂着物アート	8
	氷見市立窪小学校	漂着物調査、漂着物アート	8
	富山市立和合中学校	海岸清掃活動	9
	富山高等専門学校(射水キャンパス)	海岸清掃活動、漂着物調査	9
	富山県立滑川高等学校(海洋科)	漂着物調査、海底ごみ調査 藻場復元活動	10
	魚津漁業協同組合	藻場調査、藻場復元活動	11
	NPO 法人きんたろう倶楽部	森林保全活動、普及啓発	12
	NPO 法人森林総合支援センター	森林保全活動、環境教育	13
	砺波市美術館「子どもの造形アトリエ」	漂着物アート	14
	富山湾岸景美隊	海岸清掃活動	15
	六渡寺自治会	海岸清掃活動	16
日本・山形県	美しいやまがたの海プラットフォーム	ボランティア海岸清掃支援、 普及啓発、環境教育	17
日本・長崎県	壱岐島おこし応援隊「チーム防人」	海岸清掃活動	18
中国・黒龍江省	黒龍江省北東アジア中学生環境体験団	清掃活動、普及啓発	19
韓国・江原道	江原道クジョン小学校	漂着物調査	20
ロシア・ ハバロフスク地方	ハバロフスク市第3総合学校	清掃活動、普及啓発	21

朝日町立さみさと小学校

〒939-0742 富山県下新川郡朝日町沼保770

活動テーマ

海辺の漂着物調査

活動概要

1996年から、海辺の漂着物調査に取り組んでいる。

- 活動対象地域／朝日町宮崎・境海岸
- 活動参加人数／4年生 約70名



射水市立東明小学校

〒933-0234 富山県射水市海老江七軒1347

活動テーマ

海辺の漂着物調査、清掃活動、漂着物アート制作

活動概要

2008年から毎年、海老江海岸での海辺の漂着物調査に取り組むほか、海岸や校下の清掃活動、漂着物アート作品の制作、展示による海洋ごみを減らすPR活動にも取り組んでいる。

- 活動対象地域／射水市海老江海岸ほか
- 活動参加人数／5年生 52名



高岡市立太田小学校

〒933-0133 富山県高岡市太田4619

活動テーマ

海辺の漂着物調査、清掃活動、漂着物アート制作

活動概要

1998年から継続して、松太枝浜での海辺の漂着物調査に取り組んでいる。また、海岸清掃活動や漂着物アート作品の制作による海洋ごみを減らすPR活動にも取り組んでいる。

- 活動対象地域／高岡市松太枝浜
- 活動参加人数／約100名



富山市立岩瀬小学校

〒931-8341 富山県富山市岩瀬御蔵町1

活動テーマ

海辺の漂着物調査、清掃活動

活動概要

1996年から毎年、岩瀬浜での漂着物調査に取り組むほか、町内の清掃活動にも取り組んでいる。

- 活動対象地域／富山市岩瀬浜
- 活動参加人数／5年生 20名



富山市立浜黒崎小学校

〒931-8414 富山県富山市浜黒崎3301-2

活動テーマ

海辺の漂着物調査、清掃活動、漂着物アート制作

活動概要

地元の海岸の清掃活動や漂着物調査、漂着物アート作品の制作に取り組んでいる。

- 活動対象地域／富山市浜黒崎海岸
- 活動参加人数／4～6年生 約10名



氷見市立窪小学校

〒935-0024 富山県氷見市窪1237

活動テーマ

海辺の漂着物調査、清掃活動、漂着物アート制作

活動概要

2002年から毎年、島尾・松田江浜での漂着物調査に取り組むほか、海岸清掃活動や漂着物アート作品の制作・展示による海洋ごみを減らすPR活動にも取り組んでいる。

- 活動対象地域／氷見市島尾・松田江浜
- 活動参加人数／5年生 105名(漂着物調査)
4年生 102名(アート制作)



富山市立和合中学校

〒930-2233 富山県富山市布目3967

活動テーマ

海岸清掃活動

活動概要

生徒会が中心となって、毎年、全校生徒が校区内にある八重津浜の海岸清掃活動を実施している。これからもこの活動を続け、きれいな八重津浜を守っていききたい。

- 活動対象地域／富山市八重津浜
- 活動参加人数／全校生徒 約380名



富山高等専門学校(射水キャンパス)

〒933-0293 富山県射水市海老江練合1番2

活動テーマ

海岸清掃活動、海辺の漂着物調査

活動概要

射水キャンパスでは、学生会が中心となって、年2回程度キャンパス周辺のサイクリングロード及び海岸の清掃を実施しており、地域の美化に貢献できるよう、活動している。また、2013年には、海岸清掃活動とあわせて、漂着物調査も実施した。

- 活動対象地域／射水市海老江海岸及び学校周辺
- 活動参加人数／学生会 約120名



富山県立滑川高等学校

〒936-8507 富山県滑川市加島町45 ホームページ <http://www.namerikawa-h.tym.ed.jp/>



海岸漂着物調査



海底ごみ調査

活動テーマ

漂着物調査、海底ごみ調査、藻場復元活動

活動概要

- 活動対象地域／富山県滑川市の沿岸部
- 活動参加人数／海洋科 海洋クラブ員 116名
- 活動内容

富山県立滑川高校海洋クラブでは、富山湾を学習フィールドとしたさまざまな活動を行っている。代表的な活動は「海岸クリーンアップ活動」という海岸漂着物調査である。なかでもダイビング技術を駆使した海底ごみ調査は独特で、地先の海岸環境美化活動を力強く進めている。

さらに、「環境と育成」をキーワードに潜水活動による海草アマモの定植活動など海を豊かにする活動を積極的に行っている。

このような活動を柱に、さらに高みを目指し飛躍させるため、新しいスローガン

“Act for SEA (4C)！”「すべての活動は海のために！」を掲げている。これからも地域に根差し、地域に必要とされる活動を積極的に展開していきたいと考えている。

【海洋クラブの「4つのC(4C)」から始まる行動目標】

- 1 CAREER up (進路実現をめざす)
- 2 CO-OPERATION with our town (より地域とつながりを)
- 3 Brand-new CAN (あたらしい缶詰でブランドカアップ)
- 4 COMMENDATION (上位表彰をめざす)



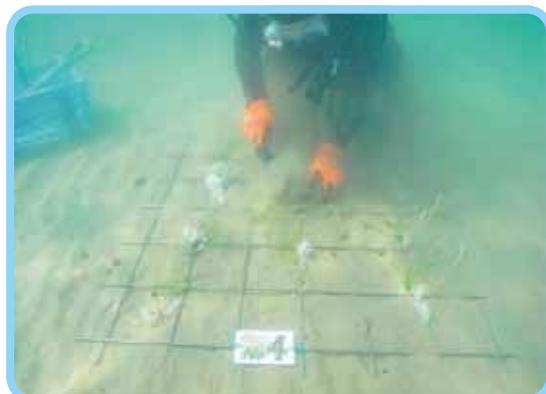
アマモの定植

魚津漁業協同組合

〒937-0000 富山県魚津市漁港定坊割



藻場モニタリング



アマモの移植

活動テーマ

藻場調査、藻場復元活動、普及啓発

活動概要

●経緯

藻場は、海藻や海草の生えている場所のことで、藻場には、①水質の浄化、②生物多様性の維持、③二酸化炭素の吸収、④浸食抑制による海岸保全などの機能があり、とても大切である。

一方で、近年「磯焼け」と呼ばれる沿岸の藻場の衰退が魚津市を始め、全国的に問題となっている。そこで、平成21年度から、藻場回復のための事業である「魚津市漁場環境・生態系保全対策事業」に取り組んでいる。

●活動対象地域／富山県魚津市の沿岸部

●活動参加人数／各回15名程度

●活動内容

この活動は、計画づくり、モニタリング、保全活動の3つで構成され、主な内容は次のとおりである

①計画づくり

関係者打合せ、計画策定、推進管理、普及啓発(勉強会の開催等)

②モニタリング

現状調査、追跡調査

③保全活動

母藻の設置、海藻の種苗投入、食害生物(ウニ)の除去、アマモの移植、流域での植林

●今後の展開

- 活動の継続
- 海の環境保全に対する普及啓発の充実
- 活動の輪の拡大



出前教室

NPO法人きんたろう倶楽部

〒930-0151 富山県富山市古沢254番地 富山市ファミリーパーク内 ホームページ <http://kintaroclub.org/>



植樹活動



「きんたろうの森づくり」

活動テーマ

森林保全活動、普及啓発

活動概要

●活動目的

富山市の里山を守る森林ボランティア団体で、「森を元気に、人を元気に、街を元気に」を目標に活動している。

●活動対象地域

富山市内7地域(富山、大沢野、大山、八尾、婦中、山田、細入)を拠点に活動

●会員数/155名(団体登録:14団体)

●活動内容

- 森づくり:持続可能な森づくりの企画、実践。
荒廃から守るだけでなく癒される森づくり。
- 人材育成:関心を持つ人々の発掘・リーダーの育成、技術研修。
- 地域の交流:旧富山市内7か所の交流促進未来を担う子どもたちへ誇りを持って託せる里山を皆の力で維持していく活動。
- 里山の利活用:森と街をつなぎ、持続的な循環の流れをつくり、いのち輝く森となるようにしていく。



竹の侵入で荒廃した森



森林整備(竹の除伐)



子ども里山体験キャンプ



森の出前講座

NPO法人森林総合支援センター

〒939-2637 富山県富山市婦中町みさご谷7番地 ホームページ <http://www10.plala.or.jp/jyugemu/>



森を守る(歩道づくり)



森を学ぶ(講義)



森で遊ぶ(ツリークライミング)

活動テーマ

森林保全活動、環境教育

活動概要

●活動目的

幼稚園児から成人に対して、自然環境教育に関する事業を行い、環境保全の啓蒙に寄与する

●活動期間と主な活動内容

春:天ぷらツアー(芽吹いたばかりの野草や樹木の新芽を摘んで天ぷらで味わう)

夏:高山植物観察会(3000m級の立山で短い夏を謳歌する植物達の観察)

秋:森の観察会(キノコ、木の実等の採取や四季がある日本の森で季節による違いを感じる)

冬:カンジキ体験(見通しのいい冬の森をカンジキを履いて散策し、冬芽や動物の足跡観察)

通年(冬を除く):ツリークライミング体験会・森の整備・ナチュラルクラフト

●主な活動対象地域

じゅげむの森(富山市)、雑木囃子の森(砺波市)ほか

●活動参加人数

○自然塾:30名以内(大学生以上) ・ツリークライミング体験会:20~30名(小学生以上)

○森の整備:10名以内(動力付きの機械(チェーンソー等)は安全講習済みの有資格者が使う)

●活動内容

(1) 森を守る:森林を観察し、その森林にあった整備目標を立て、森林整備を実施する。

(2) 森を学ぶ:養成講座で養成したインタープリターのほか、森林インストラクター、樹木医、環境再生医、地球温暖化防止活動推進委員等の有資格者が会員・協力員として、様々な内容の森林の仕組み、役割、動植物の解説等の学びを自然塾で実施している。

(3) 森で遊ぶ:整備した森の中で三次元的な空間を活かした遊びを行い、遊びの中から森林の楽しさを味わい、森林についてさらに興味を持ってもらえるきっかけ作りをする。

●活動成果

2006年からNPO法人として活動を開始。6年間実施した「インタープリター養成講座」では100名を超えるインタープリターを養成。自然塾の講師や、NPO法人や任意団体を立ち上げ、それぞれの地域で活躍している人もいる。また、2011年4月からは、任意団体「雑木囃子」を当センターの傘下団体として取り込み、未就学児童を持つ親を対象とした「子育て支援塾」も実施している。

●今後の展開、メッセージなど

子ども達を自然の中で遊ばせることで、遊びの工夫や遊びに使う道具なども工夫して作るクリエイティブな感性を養う事ができる。また、森の中にいる小さな生き物にふれ、植物と接する事で人間以外の物を慈しむ心も醸成される事を期待して、これからも活動を続けていきたい。

砺波市美術館「子どもの造形アトリエ」

〒939-1383 富山県砺波市高道145-1



活動テーマ

漂着物アート制作、普及啓発

活動概要

●活動目的

海岸に漂着する海洋ごみ(海岸漂着物)を利用したアート作品の制作などを通して、

- ①子どもたちが海岸漂着物の実態や海洋環境保全について学習し、その原因となるごみを出さないため行動を自ら実践していくきっかけとする。
- ②市民が海岸漂着物に関心を持ち、海洋環境保全への理解の促進と行動の実践を促す。

●活動期間／2013年4月～

●活動対象地域／富山県及び近隣県(石川県、福井県)

●活動参加人／238名(2013年度)

●活動内容

子どもたちが、地域の海岸において漂着物調査及び海洋環境保全学習を行うとともに、漂着物を利用したアート作品を制作する体験会を開催。

(1)実施主体及び参加者

- 実施主体:(公財)砺波市文化振興会・砺波市美術館「こどもの造形アトリエ」
(公財)環日本海環境協力センター

- 参加者:小学生及び保護者等

(2)アート制作体験会の実施内容

- ①海岸に流れ着いたごみの調査(1時間半程度)
- ②漂着ごみに関する勉強会(30分程度)
- ③漂着物を使ったアート作品の制作(2時間半程度)



富山湾岸景美隊

ホームページ <http://toyamawangankeibitai.naturum.ne.jp/>



漁港周辺での清掃活動

活動テーマ

海岸清掃活動

活動概要

●経緯

「富山の海を愛する、釣り人たちの集まりです」

私たちは釣りが大好きで、これからも楽しく釣りがしたい集まりです。

ですが、最近の釣りブームなどで釣り場のゴミ問題や釣り人の目に余る行動で釣り場が減ってきているのも、悲しい現実です。自分たちも含め、タックルや釣り方ばかり進歩して釣り人のモラルは低下しているように思います。たとえば、ゴミ問題ですが拾うだけならすぐにでもできますが、ゴミを当たり前のように捨てる方の意識を変えないと何の解決にもなりません。

そこで富山の海が好きな釣り人たちがここに結集しました！

●活動方針／何よりも「誰もが楽しく釣りを楽しんでいけるように」と心懸けて活動していきます

●活動期間／2006年～

●活動対象地域／富山県内の漁港周辺

●活動人数／会員約60人

●活動内容

釣り場の環境保全・維持に努めます。

- 定期的な清掃活動を行います。(年4回程度はメンバー全員で清掃活動を行い、その他の時は各自清掃活動を行いホームページで活動報告をする)
- HPなどを通じて、釣り場のゴミゼロを訴え続けます。



回収したごみ



回収した釣り糸など

六渡寺自治会

〒934-0001 富山県射水市庄西町一丁目17番48号 庄西コミュニティセンター



活動テーマ

海岸清掃活動

活動概要

●活動経緯

射水市庄西町にある六渡寺地区は、庄川と小矢部川と、この2つの川をつなぐ内川に囲まれた島のような地域。その北部にある海岸延長は約600メートル。庄川と小矢部川の河口の間にあるため、2つの川からゴミが流れ着く。特に小矢部川から流れてくるゴミは年を追うごとに多くなっているという。苗入れ用の黒ポット、ペットボトル、空き缶、ビニール肥料袋、プラスチック容器、水草や刈り草などのゴミが、常に海岸へたまり、「富山県で一番汚れた海岸」として問題となっている。

そのため住民は、永年にわたり春と秋の年2回、海岸の大掃除を行っている。参加した住民は、ゴミを熊手ではいたり、手に軍手をはめて拾い集めたりしている。近年は「六友会」という地元以外の住民も参加したボランティアグループが、毎月1回、流木などの大きなゴミも片付けるといった新しい動きも出ている。また、地域内の庄川の河川敷でも、ゴミ拾いを行っている。

●活動期間等／

活動開始：1972年頃

活動頻度：年2回（全住民）、月1回（ボランティア）

●活動対象地域／射水市庄西町の六渡寺海岸

●活動参加者／六渡寺地区全住民

●メッセージ

六渡寺自治会は、自分たちの地区の海岸を常にきれいな場所にしようと努力している。しかし、ゴミの処理による様々な問題に悩まされている。流れてくるゴミの量が多い小矢部川沿いに位置する南砺市、小矢部市、高岡市、砺波市の4市には、川へ流れるごみが減るよう、力を合わせて、取り組んでもらいたいと強く願っている。



美しいやまがたの海プラットフォーム

協働事務局 庄内総合支庁環境課・東北公益文科大学呉尚浩研究室・NPO法人パートナーシップオフィス
〒997-1392 山形県東田川郡三川町大字横山字袖東19-1 (山形県庄内総合支庁内) ホームページ <http://yamagatapf.info/>



海岸清掃活動



漂着物調査体験

活動テーマ

ボランティア海岸清掃支援、普及啓発、環境教育、情報発信

活動概要

●活動目的

「裸足で歩ける庄内海岸」を目標とした、海岸漂着物の発生抑制

●活動時期、頻度等

ショッピングセンターやイベント会場、釣り場等でのPR活動(年2回程度)

研修会の実施(年10回程度)

ボランティア海岸清掃支援(年3回程度)

●活動対象地域／清掃活動…海岸地域

普及啓発活動…県内全地域

●活動参加人数／約2,400名(2013年度の清掃活動参加者)

●活動内容

漂着ごみ問題の改善に取り組むために2008年に設立した組織で、NPO団体、自治会、企業、大学高等教育機関、漁協、国、市町、県等が会員となっている。現在は山形県海岸漂着物対策推進協議会が定める年間計画に基づいて、海岸漂着物の現状を知ってもらうための普及啓発活動、自然界にごみを出さない意識形成のための環境教育活動等、発生抑制対策事業を実施している。



漂着物アート作成の様子
(協力:ワタノハスマイル)



研修会の様子

壱岐島おこし応援隊 チーム防人

ホームページ <http://teamsakimori.web.fc2.com/>



活動テーマ

海岸清掃活動

活動概要

●壱岐島海岸漂着物クリーンアップ作戦「ボランティアリズムin壱岐」の開催

『ボランティアリズム』とはボランティアとリズムを組み合わせた造語で、ゴミ拾いのボランティア活動をして、次の日に観光を楽しむ、体験型観光のことです。

●活動期間等／活動開始：2010年

活動頻度：年2回

●活動対象地域／長崎県壱岐市海岸

●活動参加人数／各回100名程度

●メッセージ

ゴミは次々と押し寄せてきます。まだ取組みは始まったばかりです。

この美しい自然を後世に残し、海の環境保全と人々の意識改革のため、何が出来るかそれをみんなで考えていきたい!

「-拾う人は捨てない-」 合言葉は「ゴミゼロアース」未来に残そう世界の海を!!



黒龍江省北東アジア中学生環境体験団



活動テーマ

清掃活動、普及啓発

活動概要

●経緯

母なる川を守り、より良い生活環境を作り、市民の環境保全意識を高めるために、6・5 世界環境の日に、私たちは、ハルビン市環境保護局が主催する、松花江沿岸の白色ゴミ（発泡スチロール製容器やビニール袋）を一掃することが目的とする「母なる川を守り、水資源をいたわる」という環境保全公益活動に参加した。

ハルビン市の環境職員が私たちに循環利用可能な帽子、軍手とゴミ袋を配り、皆で松花江辺の発泡スチロール製容器やビニール袋を回収しました。大量な白色ゴミに埋め尽くされていた海岸が綺麗になった。一つの学校が回収したゴミだけでトラック2台分の量があった。

●活動対象地域／ハルビン市松花江

●活動参加人数／約500名

●メッセージ

松花江は私たちにとって母なる川だ。水資源を守らないと人類は生存できなくなる。発泡スチロールやプラスチック類のゴミは自然界で分解されないもので、川に流されてしまったら、河川水がどんどん汚染されていく。しかし、この発泡スチロール製容器やビニール袋類のゴミは私たち人間が捨てた物である。そこで、母なる松花江を守るために、以下のような提案をしたい。

- 1 小、中学校の環境宣伝教育にもっと力を入れる。
- 2 環境管理条例を制定し、日常の監督管理を強める。
- 3 マスメディアを通じて広く宣伝する。いろいろなイベントや活動によって環境保全知識を普及させる。
- 4 日常生活から人々の行動を変えていく。環境に優しいライフスタイルに変えていく。
- 5 お互いに監督し合い、水資源を破壊するような行為があったらただちに指摘して、関連部署に通報する。

江原道クジョン小学校



活動テーマ

漂着物調査

活動概要

●活動を始めた経緯

環境大賞公募に応募するなど、普段から海洋環境に関心と熱意を持っており、積極的に実施することになった。

●活動期間／2008年3月～

●活動場所／江原道沿岸(カンヌンキョンポ海水浴場、トンヘマンサン海水浴場、ヤンヤンハゾデ海水浴場)

●活動参加人数／40名

●今後の活動に向けて

- 漂着しやすい地形的な要素を考えたり、人々の出入りが少ない場所を選ぶなど、調査地点を見直すことによって、より正確な調査が行われると思う。
- 台風や大きい波があった後に調査活動を実施することにより、漂着物についてより詳しい情報や資料を収集できると思う。



ハバロフスク市第3総合学校



活動テーマ

清掃活動、普及啓発

活動概要

●活動経緯

毎年、ハバロフスク地方では、数多くの環境イベントが開催されている。特に、2013年は、ロシアの環境保護年とすることが宣言され、ハバロフスク地方においては、地域の環境保全のための主要なイベントが100以上も計画された。すべての市町村において、清掃活動などが行われており、ハバロフスク地方の青少年も、実施されている環境運動に積極的に参加した。

●活動期間／毎年4月～6月

●活動場所／ハバロフスク地方の公園、河川敷等

●活動内容

住民の憩いの場である公園、河川敷等では特に不法投棄が多くみられる。

ハバロフスク地方立の天然自然公園であるディナモ公園は多くの市民と観光客が集まる憩いの中心地となっている。しかし、利用者が清潔さと秩序をいつも守っているというわけではない。

このため、公園や河川敷等で清掃活動を行い、その活動によって他の住民と観光客に故郷を愛すること、自然環境に優しくかつ責任を持つこと、資源を合理的に利用する必要性を訴えた。

2013年の活動の開催中には、ガラスとプラスチックごみが52袋、その他のごみ40袋が集められた。

●メッセージ

環境保全活動には必ず小学生から大学生まで多くの青少年が参加している。

私たちには我々の未来に責任がある。

私たちは協力し合える環境に生きていきたい。

天然資源の保護、向上のために協力しよう！



公益財団法人環日本海環境協力センター

海洋ごみ問題の解決に向けて

漂流・漂着ごみ対策推進事業の概要

漂流・漂着ごみは、生態系や海浜景観への影響など国際的な海洋環境問題となっています。

このため、NPECが培ってきた沿岸の各国・地方自治体とのネットワークも活用し、国際的な調査を含む、漂流・漂着ごみ対策を推進します。



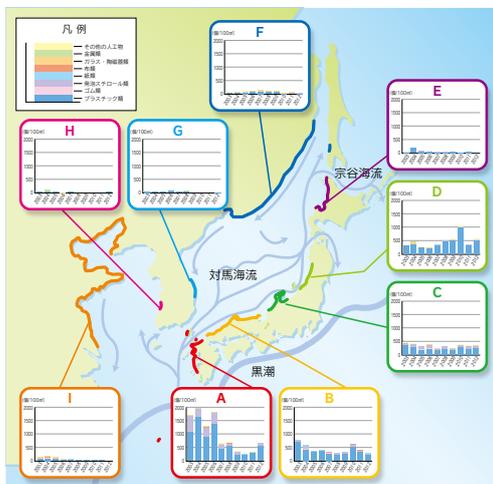
子供たちによる海辺の漂着物調査(ロシア)

漂流・漂着ごみ対策推進事業の活動内容

1 海洋ごみモニタリング調査(1996年度～)

北西太平洋の漂流・漂着ごみについて、科学的な手法により、国際的な実態調査を行っています。

日本、中国、韓国及びロシアの地方自治体やNGO等の参加を得て、海辺に漂着したプラスチック、紙類等の個数・重量を調査するもので、沿岸住民の「ごみを捨てない心、海の環境を守る心」を育むことにも資するものです。



漂着物調査結果(2003～2012年平均)

2 海洋ごみ問題に関する普及啓発

調査結果の報告書やその概要版、啓発冊子を作成・配布しているほか、各種の検討会、講演会の開催により、関係者間で情報・意見を交換するとともに、広く海洋ごみ問題について普及啓発しています。

また、多くの市民が海の環境保全について関心を高めるため、漂着物アート展を開催しています。



漂着物アート制作協力
:富山大学芸術文化学部
:氷見市立窪小学校
:氷見市海浜植物園

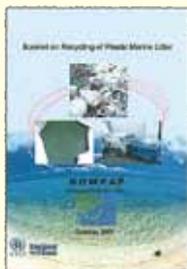


～NOWPAP海洋ごみ活動に対する貢献～

NPECで作成してきた報告書や普及啓発資材は、NOWPAPにおける海洋ごみ対策促進のために利用されています。

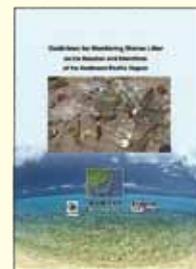


海洋ごみパンフレット



リサイクル事例集

NOWPAP4か国(日本・中国・韓国・ロシア)はNPECの海洋ごみモニタリング調査の経験をもとに作成された「海辺の海洋ごみモニタリングガイドライン」を利用して、北西太平洋沿岸で海洋ごみ調査を実施しています。NPECもこの調査に参加し、4か国の海洋ごみの実態把握に貢献しています。



モニタリングガイドライン

北東アジア地域自治体連合環境分科委員会

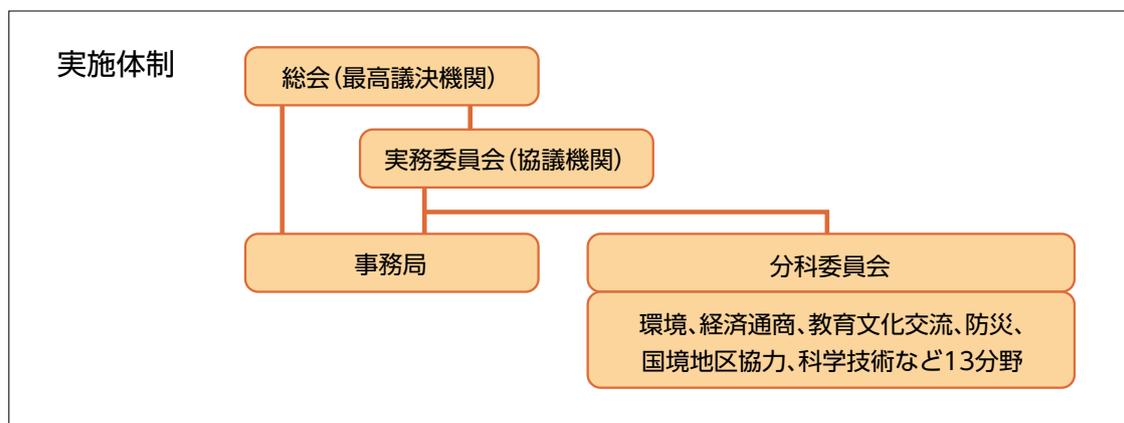
～北東アジア地域の自治体が連携して取り組む海洋ごみ対策など～

1 北東アジア地域自治体連合 (NEAR) とNEAR環境分科委員会について

(1) 北東アジア地域自治体連合 (The Association of North East Asia Regional Governments:略称NEAR)

北東アジア地域の交流・協力の促進、共同发展及び世界平和への寄与を目的に、1996年に設立された地方自治体による国際組織である。

日本、中国、韓国、北朝鮮、モンゴル及びロシアの6か国71自治体が会員として参加している。



(2) NEAR環境分科委員会

NEARの組織には、会員自治体から提案されたプロジェクトを推進する13の分科委員会が設置されている。環境分科委員会には、4か国 (日本、モンゴル、韓国、ロシア) 22自治体が参加しており、海辺の漂着物調査プロジェクトをはじめとする、環境に関する個別プロジェクトの円滑な実施を図るため、自治体間の意見調整、事業計画の具体化及び実現方策等について、検討、協議等が行われている。

富山県は環境分科委員会の連絡・調整を行うコーディネート自治体を務めており、NPECは富山県のコーディネート業務を補佐している。



環境分科委員会開催



海辺の漂着物調査プロジェクト

2 NEAR環境分科委員会の主な個別プロジェクト

(1) 海辺の漂着物調査 (提案: 富山県)

① 目的

人工物の海岸への漂着状況を把握し、海岸漂着物対策の基礎資料とするとともに、調査への参加を通して「ごみを捨てない心、海の環境を守ろうとする心」を醸成する。また、調査結果や海洋環境保全意識を共有することにより、関係者による海岸漂着物対策の連携や交流を推進する。

② 概要

海辺の漂着物調査は、富山県の主唱により1996年度に日本国内10自治体の連携・協力により開始しており、翌1997年度からは、環日本海環境協力センターが事務局業務を担い国際展開している。2003年度からは、「日本海・黄海沿岸の海辺の漂着物調査」プロジェクトとして、日本、中国、韓国、ロシアの地方自治体が参加する国際共同調査となっており、市民の参加のもと、海岸漂着物の種類別の数、重量の調査を毎年、秋頃に実施している。

③ 参加状況

これまで、北東アジア地域の沿岸4か国の38自治体、184海岸において、延べ29,316人の参加者の協力を得て実施している。

④ 調査結果

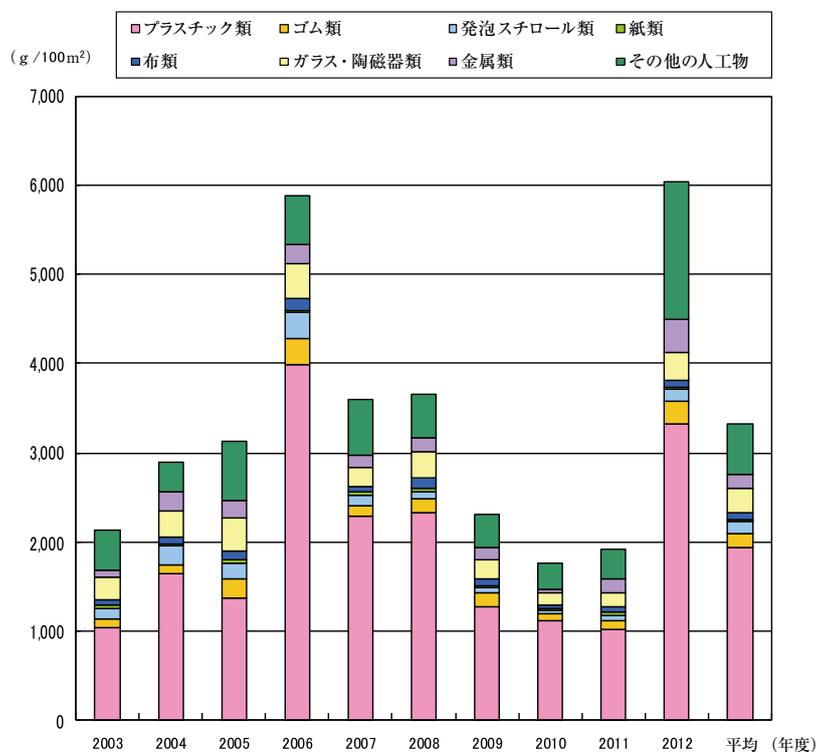
2003年から2012年までの年平均漂着物重量は3,332g/100m²であり、2012年度の単位面積あたりの漂着物重量(6,055g/100m²)は過去10年間で最も重い結果となったが、年度間のばらつきが大きく一定の傾向は見ることができなかった。種類別では「プラスチック類」が58%と最も多く、次いで「その他の人工物」が17%の順であり、いずれの年度においてもほぼ同様の傾向であった。

⑤ 成果

人工物の海岸への漂着状況の継続的把握、住民の環境保全に対する意識の高揚、北東アジア地域の沿岸自治体とのネットワークの形成及び調査への参加を通じた海洋環境教育を促進、NOWPAP漂着海洋ごみモニタリングガイドライン作成への貢献

⑥ 今後の展開

NPOとの連携強化等により、調査参加者の拡大を図るとともに、漂着物を利用したアート作品の制作体験を通じた漂着物への理解を深める取組みを推進する。



(2) 北東アジア地域環境体験プログラム (提案:富山県ほか)

国際環境協力に対する理解を深め、環境保全に向けて自ら考え行動できる人材育成を目的とした中高生向けの体験型の環境教育事業を2008年から日中韓口の4か国持ち回りで開催。2008～2012年に日中韓露蒙5か国からのべ272名の青少年が参加している。本プログラムは、北東アジア地域の青少年が一堂に会し、環境保全活動の体験、交流を図る貴重な機会であり、今後とも、各自治体等が連携して実施し、将来の北東アジア地域の環境保全を担う人材育成に努めていく。

年度	2008	2010	2011	2012
開催国 (自治体)	韓国 (忠清南道)	中国 (遼寧省)	ロシア (ハバロフスク地方)	日本 (富山県)
参加者	4か国96名	5か国54名	4か国65名	4か国57名



(3) 黄砂を対象とした広域的モニタリング体制の構築 (提案:富山県)

近年、北東アジア地域における黄砂などの越境大気汚染問題が顕在化しており、統一的な手法により環境の実態を広域的に把握することが重要である。このため、国内外の経済界・学界・自治体がネットワークを構築し、黄砂の実態や影響を把握するための簡易モニタリング(視程調査)を2009年から2012年にかけて実施した。本プロジェクトを通して、高価な器材を必要としない黄砂の視程調査の有効性が確認された。今後は、本調査の手法や成果を活用して、NEARの枠組みに留まらず、自治体、学校、NPO等が主体となって、地球環境問題に関する教育の一環として黄砂問題に取り組んでいくことが望まれる。



(4) 国際環境フォーラム「国境のない自然」(提案:沿海地方)

環境保全分野において、沿海地方政府は地方自治体、学界、経済界及び社会の活性化を戦略的に重視しており、2006年から毎年、ウラジオストク市において、極東地方、ザバイカリエ地方の専門家間の国際的な会合の場である国際環境フォーラム「国境のない自然」を開催している。(2008年からは、NEAR環境分科委員会の個別プロジェクトとして開催) フォーラムの決議には、環境保全分野において活動している国際団体、国家機関、自治体、学界、経済界、民間団体等を通して、国際環境協力の効果を拡大すること等が盛り込まれ、採択された。



3 NEAR環境分科委員会の活動実績(年表)

年	会議開催		個別プロジェクト実施
	名称	主な内容	
1998	北東アジア地域自治体会議'98 (富山市にて)	環境分科委員会等 5分科委員会の設置決定	—
1999	第1回 環境分科委員会(富山市)	コーディネート自治体に富山県が選出 (任期:1999~2001年) 個別プロジェクト協議	—
2000	第2回 環境分科委員会(富山市)	個別プロジェクト実施状況報告、 新規提案協議	<ul style="list-style-type: none"> 新 日本海沿岸の海辺の埋没・漂着物調査 新 北東アジアとの渡り鳥に関する共同調査 新 水環境の保全について
2001	第3回 環境分科委員会(富山市)	コーディネート自治体選出(富山県) 個別プロジェクト実施状況報告、 新規提案協議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本海沿岸の海辺の埋没・漂着物調査 ・ 北東アジアとの渡り鳥に関する共同調査 新 北東アジア地域国際環境シンポジウム
2002	第4回 環境分科委員会(富山市)	個別プロジェクト実施状況報告、 新規提案協議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本海沿岸の海辺の埋没・漂着物調査 ・ 北東アジアとの渡り鳥に関する共同調査 ・ 北東アジア地域国際環境シンポジウム 新 環日本海生物多様性シンポジウム
2003	第5回 環境分科委員会(富山市)	コーディネート自治体選出(富山県) 個別プロジェクト実施状況報告、 新規提案協議	<ul style="list-style-type: none"> 新 日本海・黄海沿岸海辺の漂着物調査 ・ 北東アジアとの渡り鳥に関する共同調査 ・ 北東アジア地域国際環境シンポジウム 新 NEAR環境分科委員会の環境政策に係る情報交流
2004	第6回 環境分科委員会(富山市)	個別プロジェクト実施状況報告、 新規提案協議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本海・黄海沿岸海辺の漂着物調査 ・ 北東アジアとの渡り鳥に関する共同調査 新 北東アジア青少年環境シンポジウム
2005	第7回 環境分科委員会(富山市)	コーディネート自治体選出(富山県) 個別プロジェクト実施状況報告、 新規提案協議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本海・黄海沿岸海辺の漂着物調査 ・ 北東アジアとの渡り鳥に関する共同調査 ・ 北東アジア青少年環境シンポジウム
2006			<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本海・黄海沿岸海辺の漂着物調査 ・ 北東アジアとの渡り鳥に関する共同調査 ・ 北東アジア青少年環境シンポジウム
2007	第8回 環境分科委員会(富山市)	コーディネート自治体選出(富山県) 個別プロジェクト実施状況報告、 新規提案協議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本海・黄海沿岸海辺の漂着物調査 ・ 北東アジアとの渡り鳥に関する共同調査 ・ 北東アジア青少年環境シンポジウム
2008			<ul style="list-style-type: none"> 新 第3回国際環境フォーラム ・ 日本海・黄海沿岸海辺の漂着物調査 新 北東アジア地域環境体験プログラム 新 黄砂を対象とした広域的モニタリング体制の構築
2009	第9回 環境分科委員会(富山市)	コーディネート自治体選出(富山県)、 新規加入(慶尚南道) 個別プロジェクト協議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4回国際環境フォーラム ・ 日本海・黄海沿岸海辺の漂着物調査 ・ 黄砂を対象とした広域的モニタリング体制の構築
2010			<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本海・黄海沿岸海辺の漂着物調査 ・ 北東アジア地域環境体験プログラム ・ 黄砂を対象とした広域的モニタリング体制の構築
2011	第10回 環境分科委員会(富山市)	コーディネート自治体選出(富山県) 個別プロジェクト実施状況報告、 新規提案協議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5回国際環境フォーラム ・ 日本海・黄海沿岸海辺の漂着物調査 ・ 北東アジア地域環境体験プログラム ・ 黄砂を対象とした広域的モニタリング体制の構築
2012			<ul style="list-style-type: none"> ・ 第6回国際環境フォーラム ・ 日本海・黄海沿岸海辺の漂着物調査 ・ 北東アジア地域環境体験プログラム ・ 黄砂を対象とした広域的モニタリング体制の構築
2013	第11回 環境分科委員会(富山市)	コーディネート自治体選出(富山県) 個別プロジェクト実施状況報告、 新規提案協議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第7回国際環境フォーラム ・ 日本海・黄海沿岸海辺の漂着物調査 ・ 北東アジア地域環境体験プログラム ・ 黄砂を対象とした広域的モニタリング体制の構築
2014 (予定)			<ul style="list-style-type: none"> ・ 第8回国際環境フォーラム 新 海辺の漂着物調査と漂着物アート制作 ・ 北東アジア地域環境体験プログラム 新 北東アジア環境ポスター展



URL <http://www.pref.toyama.jp>



公益財団法人 環日本海環境協力センター

Northwest Pacific Region Environmental Cooperation Center

URL <http://www.npec.or.jp>